2023 年 8 月 27 日（日）環境日本一仙台を目指す

市民フォーラムⅤワークショップにて出された参加者の意見
テーマ「食の安全と地産地消」

・グリーンコンシューマーを増やすために小学生から学習に取り入れる。
・有機農業は難しいと思う。実践している農家との情報を共有する。
・消費者が自分の台所でどの食材を選択するかだと思う。
・食料自給率を 100%にするためにどうすれば良いかを生産者、消費者、行政が一体で考える。
・日本では肥料を大量に輸入しているが、国内で発生する有機性廃棄物を堆肥化して有機肥料としてもっと供給できないか。
・チッソ、リン酸、カリウムについて現在、日本に存在する量を循環することによって、海や河川などの豊栄養化を防ぐことができるし、輸入も減らせると思う。
・地産地消を増やす工夫をする。
・有機低農薬を学校給食に使ってほしい。
・各家庭で生ごみを堆肥化する。生ごみ堆肥で野菜を作っているが、野菜本来の味がしてとても美味しい。
・多様な人々が参加できる「食」に関する話し合いの場を増やす。
・国の大企業優先の政策に反対し、第一次産業を守っていかなければならないと思う。
・市場、流通形態の見直しが必要になってきている。
・政治力が生活に係わる場面が増えているので選挙は大切だと思う。
・生ごみ堆肥化の市民の取り組みを市政だよりで取り上げてほしい。
・国、地方自治体でどう「食と農」への方針、予算化するか情報収集する。
・下水汚泥発酵肥料の利用拡大。
・農業指導員を増やし有機農業を増やす。
・各地の「オーガニックビレッジ」を参考に県でも「オーガニックビレッジ」を推進してほしい。
・学校給食に利用する食材は宮城県産を優先的に使用する。
・道の駅や直売所を増やし生産者の顔が見えるようにする。
・今泉の焼却炉を建て替える計画があるようだが、基本的には脱焼却が世界の流れです。ごみの分別を徹底し、生ごみはメタン発酵処理してエネルギーと肥料にすべきだ。
・食品廃棄物を焼却する前に子ども食堂に回したり、再資源化してほしい。

・脱炭素と廃棄物処理と肥料製造が同時にできている他県もあるのになぜ宮城県ではできないのか。できない理由を言う前にできる方法を考えてほしい。
・農家に化学肥料から有機肥料への変換を促すために、もっと具体的にその理由を説明すべきだ。
・仙台市では「市民協働」を謳っているが、まだまだ市民の力を活用していないように思う。行政だけでは解決できない課題に対してもっと市民に協力要請してほしい。